

02 校名変更 / 04 学位記授与式 / 05 卒業パーティ / 06 学生の勇姿 / 07 cafe ⑥ / 08 クラブ活動報告 / 09 cafe ⑦
10 NEWS / 14 トコトン先生大活躍! / 20 やるじゃんトピックス!! / 24 新刊書出版 / 24 cafe ⑧ / 24 スケジュール / 24 人事



大同工業大学から大同大学へ。

The top half of the page features the Daito University logo, which consists of a stylized 'D' formed by two overlapping circles, one orange and one blue. Below the logo, the text '大同大学' (Daito University) is written in large, bold Japanese characters, with 'DAIDO UNIVERSITY' in smaller English characters underneath. The background of the top half is white, with a large orange triangle on the left and a blue curved shape on the right. The bottom half of the page shows a wide-angle photograph of the Daito University campus, featuring a large green lawn, several buildings, and a blue sky. The bottom of the page has a solid blue background with white text.

創立70周年。
新たな学びを始めます。

2009年4月、大同工業大学は大同大学へと校名が変わりました。なぜ大学の名前を変えたのか。そのわけは、日本の産業がこれからどのように発展し、どのように世界に貢献していくのか、という大きなテーマと関係があります。というのも、日本はこれまで世界に誇

大同工業大が全国初

「香り」専攻分野設置へ

2010年度心理の影響など研究

大同工業大（名古屋市中区）は、香りやにおいが人の精神状態や行動に及ぼす影響と、実生への応用を研究する「かおりデザイン専攻」を〇一〇年度に設置する。香りを大学の専攻分野として設けるのは全国でも初めてという。

昨々、香りやにおいにかす需要が高まっている。高齢者の施設、病院を鑑みてサービスを生む。高年齢者の施設、病院ではおひの除けが利用され、生活の質を高める。自動車運転時は、香りがリラックス効果や安全性を高めることがあつてき。

同専攻は情報学部内に設置。具体的には、香りやにおいと心理との関係、空間における香りの効果を学ぶ。攻をアピールする。

共同研究も進める。同大は創立10周年を機に、来年四月から「大同大学」への校名変更に伴い、工学中心からの脱皮を目指す。

新専攻はその環、二十七日に一期生となる高校一年生対象のオープンキャンパスで専攻をアピールする。

「かおりデザイン専攻」などについて説明する氏。写真左側は名古屋市中区の大同工業大にて

日刊工業新聞(2009年3月24日)



平成21年4月1日、大同大学入学式挙行

総勢850名入学、 新たな学びを始めます。

学部生802名、大学院生47名、委託生1名の850名が大同大学の門をくぐった。

● 学長告辞 (概略)

大同大学に入学された諸君、入学おめでとう。ここに、ご父母はじめ、多くの関係者のご出席を得て、入学式を挙行できることを心からお礼申し上げます。同時にご父母をはじめとする、入学生を育ててこられた皆様に心からお祝いを申し上げます。

大同大学は、丁度、本日、大同工業大学から大同大学へ名称を変えました。今年は大同大学のルーツである大同工業学校誕生70周年の記念すべき年です。3月19日には、大同工業大学として最後の卒業生を送り出しました。君たちの先輩である大同大学同窓生は2万2千名を超えました。

大同大学の一番の目標は、全ての学生を社会が必要とするプロフェッショナルとして、送り出すことです。プロフェッショナルとは、仕事ができる専門家という意味です。大学院に進学した諸君も同様です。君たちは、さらにもう一段難しいことに挑戦するのです。

入学した時の君たちの力を二倍にも、三倍にもして世の中に送り出すことが大同大学の使命です。特に今の経済危機の中で、強く、強く生き抜く力をつけることはなによりも大切なことです。

大同大学の歴史について話します。大同大学のルーツをたどると、福沢桃介という人物にたどりつきます。



皆さんは福沢諭吉をご存知と思います。「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」と言った方です。慶応義塾を設立された方です。福沢諭吉の娘婿である福沢桃介もわが国の近代産業を興した人物として、歴史に名を留めています。

私は、桃介さんは日本のベンチャービジネスの元祖であると考えています。ベンチャーとは、冒険という意味です。チャレンジ精神をもって起業すること、これがベンチャービジネスです。いま、大同大学は桃介さんの原点にもどって、失敗をおそれず、チャレンジする大学に変わりつつあります。いま大学の名前を大同工業大学から大同大学に変えたのも原点に戻るためです。

大同大学は中部産業界の要請によって設置された大学です。企業との絆はどの大学よりも強い大学です。君たちが学部を卒業する時、大学院を修了する時、この経済大不況の中でも、一人ひとりに最もふさわしい、満足度の高い就職ができるよう最大の努力を払うことを約束します。私たち教職員はどのような時代がきても、君たちがたくましく、素晴らしい人生を過ごすことができる力をつけることに、最大の努力をする決心をしています。

大同大学の使命は、学生の視点に立って教育を行うことです。どうすることが、君たちのためになるかを最優先に考えています。

教育とは、一人ひとりの遺伝子をそれぞれに合った方法で、目を覚まさせることであると思います。同じ方法で、学生全員の遺伝子の寝ている部分を起こすことは不可能です。最も効果的に寝ている遺伝子を起こす方法は、興奮させることです。わくわくさせることです。強引に起こした遺伝子は目を覚まさないばかりか、起こしても直ぐにまた、眠ってしまいます。

人生で好きなことに思う存分時間をかけ



ることができる大きなチャンスが学生時代です。このチャンスを大同大学で生かし、眠ったDNAを揺り起こして下さい。自分にとって何が好きなのか、何をやりたいのか、本当に何が得意なのかを見つけて下さい。これが分かり、得意なことを中心にした生活を始めると毎日が楽しくなり、自信がついてくるものです。しかし、自分にとって本当に何が好きなのかを見つけることは簡単ではありません。一生懸命やって、いつまでも飽きがこないこと。それが好きなことなのだと思います。

まず考え、そして思うことを存分にやりなさい。一生懸命やっている、人生は思いもかけない方向に展開するものです。自分の可能性に賭けることです。多くのことを経験することによって変わってゆく自分に驚くはずですよ。諸君、待ち遠しいこと、苦しいこと、過ぎてしまえば、時はあっという間に過ぎるものです。

4年間の学部生活、さらに大学院入学の諸君は2年間の研究生生活、これからの学生生活を勉強、研究、スポーツ、部活、友人とのディスカッションなどに思いっきりぶつけて、愉快的青春時代を過ごされることを心より願っています。

私たち教職員と在校生は皆さんをこころから歓迎します。



● 入学生宣誓 (概略)

入学生代表 伊藤 悠志
(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

春爛漫のこのとき、私たちは大同大学に入学を許可され、本学の一員となりました。

これから本学で過ごす時間が、今後の人生の大切

な糧となることを念頭に置き、人との新たな巡り合いから得られることを大切にし、勉学と課外活動に励み、実り多き学生生活を送る所存です。

私たちは、諸先輩方が築き上げた本学の伝統を継承し、あふれる若い力を持って自らを一層高め、さらに新しい大同大学の伝統を築いていくことをここに誓います。

平成20年度 学位記授与式

3月19日(木)、本学石井記念体育館で、学位記授与式が厳粛に挙行された。卒業生は、ご父兄や後輩、そして教員職員に見送られながら、社会に巣立っていった。

本学は永遠に君たちの故郷です。健康に気をつけ、困難を笑って乗り越え、元気で愉快な人生を送られること、心から願っています。



答辞を述べる卒業生総代 入波平さやかさん(建築学科)

学長賞(学部)

機械工学科 小出 拓哉
学業成績が常に優秀である上に研究成果も順調で、勉学および研究活動に対して極めて熱心でした。また、思慮深く発言・行動をする事から他者から信頼を勝ち得る事にも長け、人格・学業成績・研究に対する姿勢全てにおいて優秀でした。(指導教員/白石裕之)

機械工学科 永谷 尚司
卒業研究では、極めてスケジュールに厳密に、遅れることなく、実験およびデータの解析を実施し、他の学生の模範となるものでした。(指導教員/鈴木桂輔)

情報機械システム工学科 岩島 聡
学業成績は1年次から上位で、困難な問題に遭遇しても決して避けて通るようなことはせず、努力し工夫しながら解決の道を導き出すといった努力型の学生で、人柄もよく、他の学生の模範となるものでした。(指導教員/近藤 巖)

情報機械システム工学科 小原 俊也
学業成績は1年次から常に上位であり、卒業研究ではこつこつと着実にデータを取り設計資料を作成。何事にもチャレンジ精神で前向きに行動する学生であり、就職も小さい時からの夢である中学校の数学の教師に決定しました。(指導教員/杉浦正勝)

電気電子工学科 吉 嶺 和哉
学業成績は極めて優秀であり、卒業研究では形状記憶合金エンジンの実用化研究のグループリーダーとして常に先頭に立って積極的に取り組み、優れた成果を挙げ、他の学生の範となりました。(指導教員/佐藤義久)

電気電子工学科 高野 淳一
学業成績は極めて優秀であり、卒業研究では都市型風力発電システムの実用化研究に組み、常に先頭に立ってフィールド試験を行い、優れた成果を挙げ、他の学生の範となりました。(指導教員/佐藤義久)

建築学科 藤田 幸奈
4年間一貫してきわめて優秀な成績を修め、卒業研究では論題設定の独自性と論証過程の着実な努力が高く評価され、計画・歴史分野で金賞を受賞しました。何事にも努力を怠らず、物事に対して真剣にとりくむ学修態度がこのように見事

な結果につながったものと思われます。また普段の生活態度も品行方正で、人生に対して常に前向きな姿勢は、他の学生の模範となりました。(指導教員/佐藤達生)

建築学科 佐々木 章 宏
4年間一貫して優秀な成績を修めたことに加え、建築設計の授業においても優れた作品を提出し、デザイン面でのクラスの牽引車としての役割を担ってきました。学業とデザインの両者ともが優れている学生でした。(指導教員/笠嶋 泰)

都市環境デザイン学科 神谷 紘 輔
4年間勉学に励み、絶えず成績上位で、学業が優秀でありました。また「環境デーなごや」のような社会活動に積極的に参加するとともに、正義感にあふれ、卒業後は愛知県警察に就職することになっています。周囲の友達からの信頼も厚く、人物も良好でした。(指導教員/嶋田喜昭)

都市環境デザイン学科 神田 侑 果
学業優秀であるとともに、「環境デーなごや」や「クッチャロ湖学生環境サミット」など様々な社会活動に参加し、都市環境デザイン学科の学生として充実した学生生活を送りました。明るい性格と前向きな姿勢は、同学年の都市環境デザイン学科の学生に好影響を与え、学年全体のレベルアップに大いに貢献しました。(指導教員/堀内将人)

情報学科 奥田 佳 享
人間科学科目から専門基礎・専門科目にいたるまで満遍なく、優秀な成績で学業を修めました。卒業研究では、画像信号処理の分野で独創性を発揮してテーマに切り込み、数理とコンピューティングの両面において他の学生の模範となりました。(指導教員/岩間尚文)

情報学科 片田 悠 介
入学時より常に他の学生の追従を許さない、特別に優秀な成績で学業を修めました。理論的な思考は他の学生に刺激を与え、卒業研究では周囲の学生の活性化をもたらしました。(指導教員/高木基充)

機械工学科 森 光 勇 太
ハンドボール部に所属し、H18年度、H20年度において東海学生リーグ戦において個人賞を獲得。またハンドボール部の西日本学生選手権3位・全日本学生選手権出場をはじめ、数々の大会において優秀な成績を残すことに貢献しており、その活躍は素晴らしいものでした。(指導教員/堀 美知郎)

学長賞(大学院)

機械工学専攻 稲垣 大 雄
「防振ゴムと圧電素子を用いたハイブリット制振デバイスの開発」

学業成績が優秀であるばかりでなく、企業との共同研究、特許出願および国際会議での英語文発表、米国短期留学など、非常に積極的かつ真摯な姿勢で大学院の2年間で過ごし、他の学生の模範となるものでした。(指導教員/大嶋和彦)

機械工学専攻 小林 正 治
「高速度カメラを用いた衝撃荷重時における関節筋の粘弾性挙動観察」

人物・成績ともに優秀で、本論文題目の研究についても熱心に取り組み、学術的にも高いレベルの成果を挙げました。(指導教員/小林正典)

電気・電子工学専攻 酒井 大 輔
「MEED-AESによる表面構造解析」
結晶構造解析に用いられる反射電子回折法は一般に元素識別が困難であり、その未踏領域の実験内容は努力を要するものであるが、積極的に実験に取り組み成果を出しました。(指導教員/堀尾吉巳)

電気・電子工学専攻 鈴木 将 史
都市型風力発電システムの実用化に関する研究
都市の風に適した高性能ダリウス翼の開発や太陽電池の発電効率向上など都市型風力発電システムの実用化に必要な不可欠な実験的研究に意欲的に取り組み、顕著な成果を挙げました。(指導教員/佐藤義久)

建築学専攻 横井 宏 章
「エネルギー周期曲線を用いたパルス状外乱を受ける履歴系の応答推定」
近年の地震で大きな被害をもたらしているキラーパルスに着目し、履歴系の応答推定手法の適用性をパルス状の入力波を受ける場合について検討。理論的に難しい内容をよく理解し、その成果を明解に発表しました。(指導教員/萩原伸幸)

都市環境デザイン専攻 都 築 禅
「せん断崩壊型はり部材を持つ鋼製ラーメンのα-OS法による弾塑性地震応答解析」
修士論文の研究内容と発表内容が特に優秀であり、日頃の研究の取り組み姿勢は他の学生の模範と認められるものでした。(指導教員/酒造敏廣)

都市環境デザイン専攻 和田 裕 明
「BF-spline Ritz法を用いた厚板の動的応答解析に関する基礎的研究」
修士論文の研究内容と発表内容が特に優秀であり、日頃の研究の取り組み姿勢は他の学生の模範と認められるものでした。(指導教員/水澤寛作)



学長賞(大学院)受賞者

情報学専攻 中村 智史
「コンピュータ処理およびマルチチャンネル音場により作られる音響効果が人に与える影響とその表現方法の検証」

人物的にも優れ、修士論文として作成した作品はたいへん素晴らしく、学長賞に値するものでした。(指導教員／小高直樹)



情報機械システム工学科 小野 剛史
成績優秀なだけではなく、研究室での活動に積極的に参加。また、卒業研究終了後もノウハウ資料の作成・研究支援の器具の開発など積極的に関わり、多大に貢献しました。

(指導教員／橋口宏衛)



電気電子工学科 西 正朗
学業成績優秀な上、ハンドボール部キャプテンとして活躍。卒業研究では形状記憶合金エンジンの実用化研究に取り組み、優れた成果をあげ、他の学生の範となりました。

(指導教員／佐藤義久)



建築学科 市川 文哉
入学時から優秀な成績を維持しながらクラブ活動(サッカー部)にも力を入れました。リーダーシップを有し、研究室の学生をまとめるなど、本学学生の

鑑ともなる人材でした。(指導教員／稲垣卓造)



都市環境デザイン学科 平松 都利
クラブ推薦入試の入学生ではありませんでしたが、本学のハンドボール部のエースとして活躍しました。またハンドボール部の厳しい練習の合間に教職課程科目も履修し、教員免許を取得。4年生の9月には、北海道で開催されたクッチャロ湖学生環境サミットにチームの一員として参加し、NPO法人クッチャロ湖エコワーカーズから高く評価されました。(指導教員／大東憲二)



情報学科 村松 裕也
学業優秀かつ礼儀正しい学生であり、卒業研究では、指導内容をよく理解したうえで、自らもしっかりとテーマを検討し、研究内容を充実させました。さらに優れた機能と操作性を持つシミュレーション表示プログラムを独力で完成させました。(指導教員／国立 勉)

三好賞



機械工学科 中嶋 和人
自動車技術会の主催する全日本学生フォーミュラ大会出場に向けて本学のチームリーダーを務め、チーム全員を全力でまとめました。この結果、08年度の大会では、コスト審査において、75チーム中1位を獲得することができ、これらの姿勢は、他の学生の模範となるものでした。(指導教員／鈴木桂輔)

フレー、フレー、大同生！ 卒業パーティ

学位記授与式終了後は、観光ホテルで、盛大に卒業パーティを開催。奥村理事長と澤岡学長のエールから始まり、井上副学長の音頭で乾杯！卒業生の太鼓演奏もあって、パーティは大盛り上がり。カメラのフラッシュと賑やかな笑い声の絶えないパーティとなりました。

平成20年度大同工業大学卒業パーティー





09年度フォーミュラプロジェクト本格始動 一試走会参加ー

11月23日(日)、掛川市の小笠山総合運動公園にて、08年度の学生フォーミュラ大会(自動車技術会主催、9月開催)に参加した車両(15チーム程度)が再度集結し、走行試験を行った。主な参加チームは、東京大学、大阪大学、岐阜大学、慶応大学、名古屋工業大学、大同工業大学など。

本学のDAIDO-FORMULAプロジェクト(09年度チームリーダ 清水勇樹 機械工学科3年、08年度チームリーダ 中嶋和人 機械工学科4年、チームアドバイザー 鈴木 機械工学科准教授、斧田技術員 以下20名)は、排気量450cc/単気筒ながら、その軽量をいかして、600cc/四気筒の大排気量チームに食いつく走りを見せた。

今回の参加の主な目的は、09年度車両の目

標スペックを決定するための動力性能の試験にあった。車両には、加速度センサ、角速度センサなどのセンサ類とデータロガーを搭載し、08年度車両の運動性能を評価した。もはやこのプロジェクトは、「ものづくり」でなく、「走る実験室」のレベルに達しているようである。

09年度チームリーダの清水君は、「今回収集した車両の動的性能に関するデータを解析し、来年車両では、08年度車両の運動性能から確実にアップできるように全力を尽くしたい」と熱く語っている。今後の活動を見守りたい。



多くのセンサ類を搭載し、ボディカウルを外して疾走するDF08(ドライバー:中嶋君)

ハンドボール部

ジュニアスポーツの振興と活性化に貢献!



1月11日(日)、日本ガイシホールで「レッツジュニアスポーツ体験交流イベント」が盛大に開催され、児童、保護者らおよそ2000人が集まった。

子どもたちに様々なスポーツを体験してもらい、スポーツを始めるきっかけとなることを目指しているこのイベントに今年も本学ハンドボール部員全員



が協力参加。Jリーグ名古屋グランパスの選手たちと共に体操のお兄さん役として活躍した。

この模様は1月22日(木)、東海テレビ「楽しく鍛える運動神経!」で放送され、顧問の佐藤壮一郎准教授(教養部 保健体育教室)と比嘉傑くん(機械工学科3年)がオリンピックメダリスト池谷幸雄さんと共演した。

第9回石井健一郎杯 大同フェニックスカップに協力

2月14日(土)・15日(日)、東海市民体育館で「石井健一郎杯 大同フェニックスカップ」が開かれた。第1回大会(2000年)は7チームの参加でスタート。9回目を迎えた今回は全国からなんと42チームの参加があった。

この大会の運営に本学ハンドボール部は協力・サポーターとして毎年活躍している。

*石井健一郎氏

「世界一の特殊鋼製造メーカー」である大同特殊鋼株式会社の名誉会長。

スポーツに深い理解があると同時に、自身もかなりのスポーツマン。全国高校選抜野球大会の記念すべき第1回大会優勝監督(高松商業高校)はなんと「石井健一郎」である。

本学ハンドボール部の創部時、体育館建設に数億円を寄付。「石井記念体育館」と命名した。



ロボット研究部 大竹章司君 (ロボティクス学科2年) 見事、全国優勝！



大竹君は、11月2日(日)・3日(祝)に大阪で開かれた2足歩行ロボット全国大会「ロボファイト8」に出場し、見事SRC (小型機) 部門で優勝した。

大竹君のロボットは、実績等で選出された40台によるトーナメント戦で次々と強豪を打ち破り、ロボット研究部念願の全国制覇を達成！また、ORC (大型機) 部門にも小型機のままで出場し、ナント3位入賞。「柔よく剛を制す」彼の戦いぶりに、観客は大興奮。会場を大いに盛り上げ、『ROBOCON Magazine』にも紹介された。

大竹君は、本学の課外活動発展に貢献したとして、学長賞を受賞した。

さらに、1月4日(日)に開催された「RoBo-CHAMP サンバレー杯」では、準優勝。5月4日に川崎市で開催される第15回ROBO-ONEの決勝出場権を獲得した。



全国制覇を果たした大竹君、ガッツポーズ！

裏千家茶道研究会 茶器が贈呈されました。



11月18日(火)、裏千家茶道研究会が、中部地区の学校茶道を広める運動を活発にしていると、裏千家茶道今日庵愛知第2支部より、茶器が贈呈された。

贈呈式には、裏千家茶道今日庵愛知第2支部の神谷昇司さん、本学茶道研究会鶴飼一樹部長 (情報学科3年) と谷口さやかさん (情報デザイン学科1年)、また坂貴学生部長 (電気電子工学科 教授) ら10人が参加。

神谷さんから学生に「引き続き学校茶道を広めてください。」との言葉があった。

ハンドボール部・ 大竹章司君 (ロボット研究部／ロボティクス学科 2年) 学長賞受賞！

8月5日(火)より兵庫で開催された、西日本学生ハンドボール選手権大会 (西日本インカレ) で見事、3位に輝いたハンドボール部。

そして、11月2日(日)より大阪で開催された2足歩行ロボット全国大会「ロボファイト8」で見事、SRC (小型機) 部門優勝を果たした大竹

君に2月3日(火)、課外活動において特に優秀な成績をおさめたものとして、澤岡昭学長より学長賞が授与された。



ハンドボール部キャプテン西君 (前列右から二人目)、大竹君 (前列右)



●何かを始めるのに年齢は関係ない



いつも大変お世話になっております。研究・産学連携支援室の飛田です。

僕はやんごと無き事情からベースという楽器をやっていますが、実は始めた当時22歳でした。

何でもゼロスタート時からいきなり出来るはずは無いのですが、「これはまずい、始めたのが遅かった！」と非常に焦った記憶があります。

その反面、「やるからには半端じゃ駄目だ！」という思いもあった訳で、毎日仕事後に寝る間を惜しんで死ぬほど練習をしました。

兎に角色々な音楽を聞き、DVDを見て他

飛田 甲武 (研究・産学連携支援室)

のベーシストを研究……を繰り返し、両手の指の皮が厚くなってきた頃、気がつけば大きいライブハウスで沢山の人の前で演奏していました。

「自分達の音楽でお客さんからレスポンスを感じられる」……これは演奏者の本懐であります。

当時は必死で何も考えられませんでした。今は音楽が出来る喜びに感謝を禁じえません。「何かを始めるのに年齢は関係なく、やるかやらないか」が僕の持論です。

では三拝。



平成20年度クラブ活動結果報告(抜粋)

空手道部

- 東海地区大学空手道選手権大会(5/4)
2部優勝 満仲淳一(C06)
- 第51回東海地区空手道選手権大会(6/22)
団体戦 出場

弓道部

- 東海学生弓道選手権大会(6/10)
団体戦 決勝進出
- 愛知県下学生弓道大会(6/13)
ベスト4進出
- なごやマスポーツフェスティバル2008 弓道大会
(10/19) 大学生の部優勝 平山奨悟(A08)

剣道部

- 第55回東海学生剣道優勝大会(9/15) 出場
- 第46回南区剣道大会(12/14)
ベスト8 木下 優(E07)

硬式テニス部

- 東海大学対抗テニスリーグ戦
(7/12~10/11) 出場

サッカー部

- 第7回愛知学生サッカーリーグ戦
(4/6~7/6) 出場

自動車部

- 全中部学生ジムカーナ選手権(5/25)
団体3位
- 学生ドリフト王座決定戦 東大会・西大会
(8/11~14) 出場
- 全日本学生ジムカーナ選手権(8/30・31)
出場
- キョウセイシリーズ(10/26)
大同クラス4位 保田久志(M06)

スキー部

- 東海学生大会(2/25~3/1) 総合優勝

漕艇部

- 中部学生新人選手権大会(9/27・28)
ダブルスカル2位 伊奈幹起(B08), 西脇公洋(R08)
- 南山・愛教・大同レガッタ(11/22)
舵手付きフォア・ダブルスカル第1位 野間路映(A06)

男子バスケットボール部

- 第46回東海学生バスケットボール大会
(4/12~5/6) 出場

バドミントン部

- 中日楯争奪平成20年度春季
愛知県バドミントン大会(4/6~13)
シングルスベスト16 長尾亮佑(O5B)
- 第108回東海大学・第30回東海学生
新人バドミントン選手権大会(12/1~19)
4部リーグ第4位

バレーボール部

- 第125回東海学生男女バレーボール2部リーグ戦
春季大会(4/19~5/24) 8勝2敗 1部昇格

- 第126回東海大学男女バレーボール1部
リーグ戦 秋季大会(9/13~10/25) 1勝9敗



ハンドボール部

- 東海学生ハンドボール春季1部リーグ
(4/6~5/11) 5勝2敗
- 西日本学生ハンドボール選手権大会
(8/4~9) 4勝1敗 3位
- 東海学生ハンドボール秋季1部リーグ
(8/31~10/26) 4勝3敗
- 全日本学生選手権大会(11/19~24) 出場
- 愛知学生ハンドボール選手権
(11/30~12/7) 7勝1敗



モーターサイクルスポーツ部

- ライダーズパワダイス2008(4/17) 完走
- スパ西浦モーターパーク会員限定イベントレース
(11/12) 優勝 西川晃司(O5A), 佐藤正人(O5A)
- いなべカップエンデューロ大会第4戦
(11/30) 5位入賞 佐藤正人(O5A)



優勝した西川君

陸上競技部

- 第74回東海学生陸上競技選手権
(5/9~11) 出場

レーシングカート部

- 2008SL中日本カートミーティングシリーズ第4戦
(6/28・29) 決勝2位 葛西佑紀(M08)

E・D・P・S部

- コミックライブin名古屋
オータムスペシャル2008(10/13) 参加



ラグビー同好会

- 2008東海学生ラグビーリーグ戦
(9/21~11/30) 出場

音楽研究部

- YL イヤリーライブ(1/5) 参加

アーチェリー同好会

- 東海学生アーチェリー選抜選手権大会
(5/4) 出場

ダンス同好会

- 愛大・大同・名大対抗戦(3/30)
団体戦出場 個人総合5位入賞 勝川佳和(O5B)
- 第44回中部日本学生競技 種目別戦(6/22)
3位入賞 勝川佳和(O5B)
- 第56回全日本学生選抜競技ダンス選手権大会
(7/6) 2次進出(ラテン) 勝川佳和(O5B)
- 第44回八種目戦(10/5)
準決勝進出(スロー) 森田貴久(O5B)
準決勝進出(クイックステップ) 吉田有希(O5B)
- 第42回秋季西日本学生競技
ダンス選手権大会モダン戦(10/19)
準決勝進出(ワルツ) 岩田宗也(R08)
- 第53回全日本学生競技ダンス選手権大会
(12/14) 2次進出 勝川佳和(O5B)
- 第40回東西対抗戦学生競技ダンス選手権大会
(1/15) 2次進出(ワルツ) 森田貴久(O5B)
2次進出(チャチャチャ) 勝川佳和(O5B)

漫画研究部

- コミックライブin名古屋(8/24)
参加

ロボット研究部

- ロボファイト(11/2・3)
SRC部門 優勝 大竹章司(R07)
- 姫路ロボチャレンジ(12/21)
準優勝 大竹章司(R07)

卓球研究会

- 愛知県秋季リーグ戦(9/9~11)
出場

模型研究会

- キッズランド大須店ガンブラコンテスト
(8/1~31) 出場

軟式野球部

- 春季リーグ(3/17~5/16) 6勝4敗
- 秋季リーグ(8/22~10/24) 総合9位

自転車研究会

- 鈴鹿8時間エンデューロ(7/19)
178位/518位中

※成績結果報告書提出分から抜粋して掲載しています。

吹奏楽団

The 23rd Regular Concert

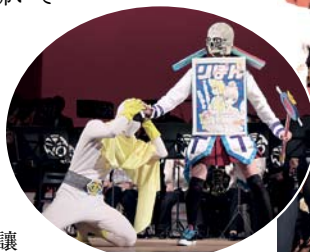
3月1日(日)、名古屋市中区栄のアートピア・ホールでDIT吹奏楽団第23回定期演奏会が開催され、およそ200人の観客を楽しませた。この演奏会は3部構成となっており、第1部では挨拶として「A HUNTINGDON」を初め4曲演奏した。

第2部ではDIT吹奏楽団定期演奏会の名物となっている企画ステージ。これだけを見るために、毎年通ってくれている人もいる人気のステージ。今年は秘密結社ダブリの魔の手から

学生たちの単位を守る戦士の物語「工業戦士ダイドラー」を熱演。シリアスな内容に時折入れる笑い…、会場が沸いていた。

そして迎えた最終ステージの第3部では、「バックドラフト」「リトル・マーメイド・メドレー」「アニメ・メドレー 久石譲

作品集」を演奏。誰もが一度は聞いた事のある曲で観客を楽しませた。



CAFE 7

アップル活動

2006年4月、入学式後に受けたプレイスメントテストの結果により、僕は学習支援センター（以下アップル）でお世話になることになった。S棟1階にあるこのアップルでは数学・理科・英語など基礎から学ぼうとする学生を対象に学習支援を行っているのであるが、このような所に勉強以外にも力を注いでいる人物が若干1名いる。ちなみに、その人の担当は音楽実技および語学で、本人が学生時代に体験した活動を我々にも押し付けている。

本人曰く「大学時代には学業以外に打ち込む事がある」と。その人の協力のもと、これまでアップル活動として取り組んできた事をいくつか紹介したいと思う。

APPLES（アップルとは無関係、学生室が発行する冊子）の中に偶然にも「球技大会参加チーム募集」のチラシが入っていた。そして全てはこの一枚の紙切れから始まったのである。

大学の授業が始まって間もない頃から私は「その人」と授業の合間に毎週のようにキャッチボールをしたりしていたが、そのチラシをきっかけにアップルチームとしてソフトボールに参加することまで発展した。結果は予選で敗退したが来年へ向けての目標ができた。相変わらず授業の合間や春休み中にも数人でベースボールの練習をした。翌年は予選通過したものあえなく準決勝で敗退。その次

の年は大会前日にチームで全体練習して挑んだが、残念ながら雨天中止。私に残されたチャンスはあと1回しかない。何とか「その人」の悲願である優勝旗を引提げて卒業式に参加したいものである。

ベースボールの他にもアップルでは期末試験が終わると、「アップル名物」と称し冬は焼き芋（ふかし芋）、夏は焼肉などの大会を楽しんでいます。

しかし、ただ食べているだけと思ったら大間違い!! アップル学生は学校の美化にも大きく貢献しているのである。

今年2009年からは事務部長の大矢さんから協力を得て、A棟1階南側の花壇で農園活動をする事も決まった。

夏にはヘチマや朝顔が見事に咲くのですが冬になると枯れてしまうのです。ネットに絡みついた枯れたツルなどを綺麗に取り除いたり、ネットを張り替えたり全て手作業で行っています。その一部の荒地を耕して畑を作り、冬の焼き芋大会用のサツマ芋を栽培しようとしています。既に2月中旬には種植えを済ませ収穫を楽しみにしています。駐車場の隅に溜まっていた落ち葉の片付けは大変な作業でした。こんな活動はなかなか地味な作業ですが終わった後にご馳走してもらえる大盛りのカツカレーがとてもおいしいのでそれを励みに頑張れます。

このようにアップルでは工業大学でありながら農業体験が得られるのです。



高木守道さんからのサイン

蜂須賀 友輝生 (M06)



高木守道さんからプレゼントされたドラゴンズキャップ（非売品）をかぶり記念撮影

やはり、これまでの活動で最大のイベントは2009年3月10日のことである。

2007年夏に「その人」は何とか球技大会で優勝しようとあの高木守道さんにコーチを依頼するべく手紙を書いたのである。そして何と1年半後の2009年1月7日の夜、その高木さん本人から直接電話がかかってきたそうだ。名手高木さんは快くその依頼を引き受けてくれた。何とも信じられない。それ以後さらにベースボールの練習を続けた。

当日、高木守道さんは約束通り現われおみやげまでも頂いた。あの立浪選手などが受けたノックを我々も受ける事ができてとても嬉しかったです。バッティング練習では高木さん自ら投手役を買って出してくれ、私は自慢の怪力を褒められました。入学以来3年間ベースボールアップル不動の4番打者を務めてきた私には最高の言葉だった。

また来てくれることを期待しています。高木さんのためにも今年は是非とも優勝して大学生活最後の年を締めくくりたいと思う。

アップルに来たおかげで、学業以外に少なくともボールを打ち込むことはできた。

NEWS

■ロボティクス学科

西堀賢司研究室・ロボット研究部

あいちロボット技術フェスタに出展

2月11日(木)、愛知県産業貿易会館本館3階で、愛知県主催初のロボットイベント「あいちロボット技術フェスタ」が行われ、県内の学校や企業が製作したロボットが一同に集まった。

このイベントは、作品展示・実演会場、情報交換・交流スペース、ロボット競技大会の3会場に分かれて来場者を迎え、本学は、作品展示・実演会場に自立走行型サッカーロボットや、空中ブランコロボットなどの展示・説明、ロボット競技大会に2足歩行ロボットを戦わせる、ロボットバトルの司会・進行などを行った。

展示コーナーでは、本学西岡範見君(大学院工学研究科機械工学専攻1年)を筆頭にサッカーロボットについて、全方位カメラや縦横斜めに自由に動くことのできるオムニホイールなど、各箇所の役割を熱心に説明。質問に来る

高校生や、企業の方に答えていた。

また、ロボットバトルコーナーでは、本学ロボット研究部による、情熱的な審判裁きに会場は大盛り上がり。ロボットバトル終了後も、子どもたちの興味はさめず、バトル参加者たちへの質問がとどまることはなかった。

この様子は、NHK、CBCのお昼のニュースでも紹介された。



松山祥紀君(中央)

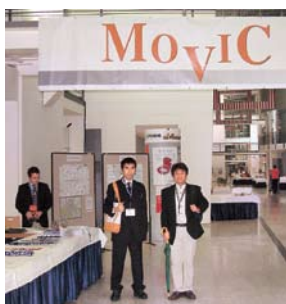
大嶋和彦研究室

稲垣大雄さん(大学院 工学研究科 修士課程 機械工学専攻 2年)

ドイツで研究発表、アメリカで研究交流

平成20年9月、ドイツ・ミュンヘンで開催された国際学会に参加し、「MOVIC 2008」で英語による研究発表を行ってきました。また、10月に本学の学術提携校であるアメリカ・オレゴン州立大学に行き、約2週間の研究交流を行ってきました。

初めに、これらの成果を得るに至るまでのいきさつをお話したいと思います。きっかけは、中学生の時に在住していた市の交換留学でオーストラリアへ行った事です。初めての外国に戸惑いつつも、異国の環境に強い興味と憧れを覚えた私の心の中に、「いつか外国で活躍したい」という目標が芽生えました。本学に入学して間もなく本格的に英語の勉強を始め、年2回のTOEIC IPテストをバロメータにしつつ、「大学在籍中に外国で学んだり、英語でプレゼンテーションをする機会をつくる」という目標を掲げ努力してきました。前者につ



稲垣さん(左)と大嶋教授(右)

いては比較的早期に実現し、学部2年次にアメリカ短期留学でオレゴン大学に行き、そのアカデミックな環境に感動した私は、ますます目標への想いを確固たるものにすると同時に、理系の大学も訪れてみたいという新たな願望が生まれ、そして夢が叶いました。指導教授の大嶋先生の熱心な御指導の甲斐もあり、MOVICでは充実した発表を行うことができました。またアメリカでは大学・大学院の授業に参加させていただき、そのレベルの高さに舌を巻く思いでした。

この国際会議の前後で、ヨーロッパ7カ国(フィンランド、エストニア、ドイツ、オーストリア、イタリア、スイス、フランス)を時計回りに旅してきました。一番のお勧めはパリです。歩いているだけでも楽しくなる不思議な魅力を持つ街です。芸術と美食を重視するならイタリアが良いと思います。特にコーヒーが安い上に

トルコからの留学生 ファルク オンデルさん DITでの1年



イスタンブール工科大学でエレクトロニクスを学んでいた、ファルク。卒業後は産業用ロボットについて深く学びたいと、その分野で世界一の技術力を持つ日本に留学を希望していた。友人がいる名古屋に旅行で訪れた際、名古屋市内にある本学ロボティクス学科を知り、ホームページで調べ、西堀賢司教授にメール。直接西堀教授に会って話をし、研究生として本学で学ぶことを決めた。

平成20年4月より西堀研究室で、茶谷祐次君(情報機械システム工学科4年)とタッグを組み、企業との共同研究「セルフフォーカスレンズとPSDを用いた小径深穴計測用センサプローブの開発(Development of Sensor Probe for Deep Hole Measurements Using Selfoc Lens and PSD)」をテーマに1年間研究した。その成果は、平成21年5月に福岡市で開催される日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会で発表される。

平成21年7月、トルコに帰国する彼はイスタンブールの大学院入学を目指している。夢はと尋ねると「大学教授」と答えた。トルコの大学に比べて本学は、教授と学生のコミュニケーションが深いと感じていたファルク。「大同スタイルの教授を目指します!」と最後に付け加えて、笑った。



格段に美味しく、バー(Bar)でどこよりも美味しいエスプレッソをたった1ユーロ(約130円)で飲むことができます。アメリカではオレゴンの研修の後サンフランシスコとヨセミテ国立公園に行き、グレイシャーポイントまでハイキングを楽しんできました。帰り道、山下りのへとへと状態でクマと遭遇したのが今回の一連の旅で最もヒヤッとした出来事です。生きて帰って来られて良かったです。

先日の修了式では学長賞と日本機械学会三浦賞を頂き、研究生活の締めくりに花を添えることができ大変嬉しく思います。将来は外国で活躍するエンジニアを目指し、日々精進していきたいと思っています。最後に、指導教授の大嶋先生と、お世話になった大同工業大学の方々に感謝の意を表し、締めくくりたいと思います。ありがとうございました。

■電気電子工学科

小型・マイクロ風力発電セミナーを開催



佐藤教授(左)

12月5日(金)、本学工学部電気電子工学科主催で「小型・マイクロ風力発電セミナー」を開催。およそ120人の参加者がゴビーホールに集まった。

本学水澤富作副学長挨拶の後、「小型・マイクロ風力発電システムの利用事例」と題して、佐藤義久教授(工学部電気電子工学科)による基調講演が行われた。講演では、エネルギー問題と地球温暖化、小型・マイクロ風力発電システムのコンセプト・利用事例と研究紹介、今後の課題(標準化・共通化、認証)、普

及促進・実用化について説明した。

その他にも、本セミナーでは、寺沢正嗣氏(安城市企画部環境首都推進課)、中野達夫氏(愛知県産業労働部新産業課次世代エネルギーグループ)が基調講演され、その他メーカー各社による最新技術と利用事例についての発表があった。

最後に、佐藤教授コーディネータのもと、小型・マイクロ風力発電の市場展望と課題について会場からの質問を交え、行政としての考え方、またメーカーとしての考え方をまとめ挙げ、聴講者の関心を惹いていた。

佐藤義久研究室 中部ものづくり産業展 フロンティア21エレクトロ ニクスショー 2008に参加



吉嶺和哉さん(中央)

11月11日(月)～13日(水)に開催された「中部ものづくり産業展フロンティア21エレクトロニクスショー 2008」に佐藤研究室が参加。

このイベントは、中部を代表する電子・情報の展示会で今年39回目。「IT・エレクトロニクス技術が支える、クルマと中部のものづくり最前線」をテーマに、佐藤研究室は、風力発電など、日ごろの研究成果を発表した。

森本浩紀さん、鈴木亮志さん、古田真也さん

(大学院 工学研究科 修士課程 電気・電子工学専攻 1年)

キャンパスベンチャーグランプリ中部大会で努力賞を受賞!



表彰式

2月3日(火)キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)中部大会の表彰式が名古屋 Marriott アソシアホテルで行われた。

この大会は、時代のニーズに即した新鮮な発想、ユニークなアイデア、独創的な技術、情熱あふれる若者の挑戦に期待して、学生によるベンチャービジネスのアイデア・事業プランを競い合う大会。

本学は、森本さん、鈴木さん、古田さんの佐藤研究室の3人が「形状記憶合金を用いた発電量向上プロジェクト」を出展。見事努力賞に輝いた。

発表の様子は、2月3日(火)の日刊工業新聞で大きく紹介された。



澤岡学長(右)と佐藤指導教員(左) 表彰式後



プレゼンテーション

NEWS

■建築学科

ルカ・ファブリス先生(ミラノ工科大学) 来日 学術交流Dラーニング

10年の歴史を持つDラーニング(社会参画型授業)に2007年よりミラノ工科大学が参加。学術交流協定を締結し、毎年、建築学科3年の建築設計の授業の中に共通の課題を設け、スケッチ段階から完成までの学生のスタディをチャットに掲載し、両校の学生が自由に閲覧できる環境をつくることにより、刺激的な授業を行っている。2008年度はミラノ工科大学の課題に本学の学生が参加。第1弾は「アーティストのための集合住宅と公園の設計」。ミラノに隣接するセスト・サン・ジョバンニ市内の工場跡地およそ5万平方メートルの約1/4のスペースにコレクティブな集合住宅と公園(C-Scape)の設計を課題に実施した。

そして第2弾となる今回は、「ヨーロッパの現代建築におけるサスティナビリティ(持続可能性)は、今後どのような展開を迎えるか?」

をテーマに、ローマ市内にある、老朽化し人が住めない建築物の外壁だけを使用した、公園・コンサートホール・ホテル・居住区のある環境に配慮することが求められた複合施設の設計が課題。

この課題の背景には、ヨーロッパには中世以前に立てられた建築物が多く、その保存を考え、建て直しを行う事が一般的というヨーロッパの文化が関係しており、挑戦した本学の学生たちは日本との文化の違いに苦戦しながらもコンセプトを形にしていた。

本課題の公開講評会を2月20日(金)本学白水校舎製図室で開催。これに加え、記念事業として、ミラノ工科大学で一緒に取り組んでいるルカ・ファブリス先生が来日し、服部文彦教授(教養部人文社会教室) 通訳の下、講演した。

その後、本学建築学科3年生11人による発



表が実施され、ファブリス先生に参考文献などのアドバイスをもらった。なかにはファブリス先生に自分のコンセプトをより多く伝えるため、英語で発表をする学生も見受けられた。

ファブリス先生は、日本の学生のアイデアは、面白いものがたくさんあった。ミラノの法律では許されない箇所もあったが、自由なコンセプトを聞いたのは大変参考になったと講評を述べた。

本学の講評会が終わると、ファブリス先生がミラノ工科大学での課題発表のうち2件紹介。構造がしっかり計算され、実際の建築物になれる現実的な作品に、本学の学生たちはまたいつもと違った刺激を受けていた。終了予定時刻が1時間以上オーバーするほど、熱の入った公開講評会となった。

特別レクチャー 五十嵐淳『自作を語る。』



1月21日(水)、山田幸司研究室主催でスター建築家 五十嵐淳氏を講師にお招きし、特別レクチャーを本学白水キャンパスで開いた。

この会は、「建築系ラジオ」でともにコメンターとして活躍している本学 山田幸司准教授の呼びかけによって実現。さすがに評判の建築家ということもあって、学外からの参加者も多かった。

レクチャー終了後は、建築系ラジオの収録、そして懇親会へ。参加した学生たちは、第一線で活躍している五十嵐さんの話に聞き入り、目を輝かせていた。

「広小路・夢・デザイン展」に出展

11月28日(金)～12月27日(金)に開催された「広小路・夢・デザイン展」に本学建築学科2年の伊藤史哉君、稲山圭太君、西村大地君、早川貴大君、平塚直也君、柳沢和也君と1年の浅野愛里永さんが模型・パネルを制作・出展した。このイベントは、愛知県内の建築系7大学がそれぞれ将来の広小路通りをデザインし、多くの市民の方に見て触れていただこうというもの。12月8日(月)には三井住友銀行・SMBCパークでトークセッションが行われ、西村君と稲山君がプレゼン。最も注目を浴びていた。



■都市環境デザイン学科

3D・VRシミュレーションコンテストで「エッセンス賞」受賞！

11月20日(木)、東京コンファレンスセンター・品川で「第7回3D・VRシミュレーションコンテスト／本選」が開かれ、本学都市環境デザイン学科が参加。およそ30団体の中から、見事「特別賞・エッセンス賞」を受賞した。

このコンテストは、様々なプロジェクトや先進的なシステムに活用されている「リアルタイムVR（バーチャルリアリティ）、UC-win/Road（道路事業・公共事業における合意形成を支援する3次元リアルタイムVRソフトウェアパッケージ）」を利用した研究や技術、アイデア



プレゼンテーションする嶋田喜昭 准教授

をプレゼンテーションするもの。

本学は「研究・教育カリキュラムへのVR活用事例」にノミネート。2007年度よりVRを用いたまちづくり教育の一貫としてUC-win/Roadの実習を導入しており、多様な視点から設計・デザイン提案ができる技術者の育成を目指している現況をプレゼンした。

その結果、VRを研究や教育に活用している事例はまだ少なく、その点が特に評価され、今回の受賞となった。



会場の様子



表彰式の様子

■情報学科

川戸和英研究室

(株)ミツカングループ本社見学

社会や企業をメディアやコミュニケーションの視点から研究する川戸研究室では、企業見学が重要な実地研究となる。12月8日(月)、3年生の新卒研メンバー14人が、半田市のミツカングループ本社を見学した。

はじめに、酢の博物館を1時間かけて、昔ながらの製法で酢が作られる工程を見学。その後本社の会議室で、コーポレートコミュニケーション本部の広告担当、山田義晴氏から、同社の広報・広告展開のレクチャーを受けた。学生たちからは活発な質問が出て、中には広告キャンペーンのアイデアを出す学生もあり、和気藹々の企業見学となった。



大石勇起君 (情報学部 情報学科 4年)

「色彩学会 東海ヤングセミナ発表」を通して



3月23日(月)、本学にて色彩に関するテーマで研究をしている学生による研究発表会が行われた。私はこのセミナーで卒業研究として取り組んだ「本学

ハンドボール部のユニフォーム制作」について発表した。セミナーには、私以外に名古屋大学大学院、椋山女学園大学、淑徳大学も参加。1人15分間の発表を行った。先輩の学会発表に参加したり、また私自身、卒業研究発表の経験もあったが、聴講者の殆どが専門家という場での発表は初めてで、とても緊張した。やはり専門家の意見は今までになかった視点からのものが多く、とても参考になった。

今回の経験は、4月より本学大学院に進学する私のモチベーションを更に引き上げた。よ

伊藤瑞記君 (大東憲二研究室 4年) クッチャロ湖へ、再び。

伊藤君が参加したクッチャロ湖環境フォーラムは、北海道の稚内からオホーツク海沿いにおよそ70km南下したところにある浜頓町で、3月8日(日)に開催された。

昨年9月に、関東の大学を中心におよそ90人の学生が参加したクッチャロ湖学生環境サミットでの13チームの発表の中から、東京大・日本大・東京農大チーム、東京農大チーム、大同工大チームが選ばれ、大同工大チームは、伊藤君が発表した。

大同工大チームは、我が国で3番目のラムサール条約登録湿地であるクッチャロ湖の水質調査と湖底調査を組み込んだサイエンス・エコツアーを提案した。

今年の夏には、この提案が実現しそうだ。



プレゼンテーションの様子

り一層研究活動に取り組み、学会発表等、積極的にチャレンジする決意を新たにした。



トコトン先生!
大活躍!

■ 澤岡 昭 学長

世界が絶賛した映画『おくりびと』にコメント



2月23日(月)、第81回アカデミー賞外国語映画賞を受賞した「おくりびと」の公開に先駆け、9月12日(金)の日本経済新聞紙面に中部地区各界からとして「この映画は「死」というテーマを通して、今をどう「生きる」かを教えてくれている気がします。是非若者にも観てほしい。」と澤岡学長のコメントも掲載された。

また、1月16日(金)から公開された映画「ザ・



2008. 9. 12(金) 日本経済新聞

ムーン」では、12月23日(火)に開かれた試写会に招かれ、「月面着陸40周年を迎えて」と題し、映画の見どころやアメリカが月を目指した背景について語った。

なお、この情報は、1月9日(金)の日本経済新聞に大きく掲載された。

「富山市 小・中学校
完成記念」で特別講演

10月25日(土)、富山市立芝園小・中学校の新校舎竣工記念講演会が同中体育館で開かれ、生徒や保護者らおよそ500人が集まった。

この会の講師を務めた澤岡学長は「未来を切りひらく日本人宇宙飛行士」と題して講演。「日本は宇宙飛行士を乗せる有人ロケットを造る力を持っている。絶対に事故を起こさないロケット技術の確立が課題」などと述べた。

なお、この模様は翌日の北日本新聞で紹介された。

名古屋市の教員
およそ450人に講演

1月20日(火)、名古屋市の教員およそ450人にパンフレット「未来を切り開く、日本人宇宙飛行士～もうすぐ完成する国際宇宙ステーション～」を配付し、講演。

講演会終了後、受講生からは、以下の感想が寄せられた。

- 今日の話を教室の子供たちにも話してやりたい。
- 学校の中で過ごす時間と違う大きな広がりを感じました。
- 仕事への意欲がわきました。夢のある仕事へチャレンジしていきたいです。
- 澤岡先生の落ち着いた話し方はとても参考になりました。
- 新しい知識、価値観を得ることができました。
- 人が生きていくための情熱を感じた。
- 毎日、時間に追われてゆとりがなかったが、久しぶりに心の栄養になった。
- このような講演は、とくく教育だけの狭い世界に偏りがちな我々にとって、とても有意義だ。

ラジオ番組に続々出演

太陽帆船「コスモスI」の打ち上げや日本人初ママさん宇宙飛行士、若田宇宙飛行士搭乗・スペースシャトル「ディスカバリー号」について、各ラジオ番組で澤岡学長が出演し、コメントした。

11月14日(金)放送

東海ラジオ『小島一宏モーニングあいランド』

3月12日(木)放送

NHKラジオ第1『私も一言! 夕方ニュース』

3月22日(日)放送

東海ラジオ『らじおガモン倶楽部』

名古屋産業人クラブ「創立50周年の集い」で講演



11月13日(木)、名鉄ニューグランドホテルで、名古屋産業人クラブ「設立50周年の集い」が開かれた。

その会で澤岡学長が記念講演会の講師依頼を受け「舵をきった日本の宇宙開発～宇宙基本法によって何が変わる」と題し講演。「世界の宇宙開発50年」「日本の宇宙開発」「2008年8月27日に試行された宇宙基本法」「国際宇宙ステーション」に加え、山崎直子宇宙飛行士のスペースシャトル「アトランティス号」搭乗決定の話題にも触れる等、聴講者およそ150人の関心を惹いていた。

トコトン先生
大活躍!

■ 堀 美知郎 教授 (機械工学科 先端機械工学専攻)

自動車向け燃料電池
への取り組み

11月6日(木)の中日新聞朝刊に、自動車向け燃料電池に取り組む堀教授の研究室が、大きくカラーで掲載された。



名古屋テレビ【メ〜テレ】放送「UP!」(2/27放送)に出演



2月27日(金)、東京ビッグサイトで「FC EXPO 2009～水素・燃料電池展～」が開催された。このイベントは、世界15カ国・地域より有力企業が参加・出展し、多数の燃料電池業界トップが顔を合わせる場になっている。堀教授は、出展等はしなかったもののメ〜テレ「UP!」の取材に応じ、燃料電池について解説をした。

■ 小森和武 准教授 (機械工学科 先端機械工学専攻)

社日本鉄鋼協会「学術記念賞(西山記念賞)」受賞



3月28日(土)、小森准教授は、鉄鋼材料の圧延加工および伸線加工を解析的に研究することにより、CAEシステムを開発すると共に、加工中に発生する不良現象を解明した。この「圧延加工及び伸線加工の数値解析の研究」は、鉄鋼に関する学術の研究に多大な功績を与えたと認められ、社会法人 日本鉄鋼協会より「学術記念賞(西山記念賞)」を受賞した。



■ 佐藤義久 教授 (電気電子工学科)

「研究シーズ発表会」で発表

中部地域の私立12大学が組織する中部研究支援実務者連絡会と合同で研究シーズ発表会を開催した。

この発表会では、各大学から厳選された研究シーズについて、当地域の特徴であるものづくり分野と次世代のライフサイエンス分野の2つの分野で発表するとともに、各大学の取り組み、研究シーズ等をパネル展示した。

本学は、佐藤教授がものづくり分野シーズ発表会で「地球環境に優しい排熱回収型新発電システムの可能性について」と題して発表した。



■ 笠嶋 泰 教授 (建築学科)

日本建築学会
「東海支部研究発表会
シンポジウム」で講演

2月14日(土)、岐阜市文化産業交流センターでシンポジウムが開かれた。テーマは「建築教育をめぐる新しい動き」。地域との関わりの中で新しい教育の試みを展開している笠嶋教授が講師として招かれた。「熱い共感と呼んだ社会参画型授業『Dラーニング』」と題して、およそ100人の聴講者に本学の教育活動・取り組みについて、事例を挙げながらわかりやすく説明した。

■ 曾我静男 教授 (教養部 教職教室)

学生を勉強させるために、教員は奮闘する

「〇〇君、今回はいいぞ。誤字に気を付けろ」「〇さん、前回の成績が泣くよ。期待しているんだ」。曾我教授が個々の学生に声をかけ、学期末試験の答案を手渡した。1月下旬。後期の授業15回は終わった。この日は答案を返すだけの「おまけ」で、午前9時からの1限目だが、欠席者はいない。

答案用紙は添削のペンで真っ赤。受講生およそ70人の名前をよどみなく呼び、以前の成績や課題の提出状況、最近の授業態度にも触れ

ながらミスを指摘し、しかり、あるいは励ます。満面の笑みもあれば、悔しそうにゆがむ顔もある。「学生に勉強させるには、からくりが要る」と曾我教授。そのひとつが手渡し答案返却だ。「こんなに緊張する授業はほかにはない。先生が名前を覚えていて、いつ指されるかわからない」と1年の学生は打ち明ける…と曾我教授が担当する「教育社会学」の授業でのひとこまが、3月7日(土)の読売新聞に大きく掲載された。



トコトン先生！
大活躍！

■ 山田幸司 准教授 (建築学科)

『建築ジャーナル』設計事務所ダイアリーに紹介される



『建築ジャーナル 2008年12月号』設計事務所ダイアリーNo.33に、山田准教授の1ヶ月が紹介された。今回紹介されたのは、10月1日～31日までの1ヶ月。

カレンダー形式になっており、設計の仕事やゼミの話、ラジオ出演や執筆活動……と、とにかく多忙！な様子を紹介。しかし、わずかな休みの日には息子さんのサッカーの試合を応援に行くなど、素敵なお父さんぶりが垣間見えたりと、山田准教授の違った一面も見られた。



設計事務所ダイアリー 山田 幸司さんの1か月														10月	
※緊張感と面白みのバランスが良い刺激に															
1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日
17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	

建築系ラジオ 全国配信中！



建築に関わる様々な話題を音声で提供する「建築系ラジオ」の全国配信が8月から始まった。企画・運営のコアメンバーは、山田准教授、五十嵐太郎東北大学准教授(建築批評家)、南泰裕国土館大准教授(建築家)、松田達氏(建築家)の4人。また、建築学科の学生たちも登場し、毎回、熱いトークが繰り広げられている。

これまでは、本学でも公開収録を行い、清水郁郎准教授(工学部建築学科)や本学建築学科1・2年生の学生も出演した。

番組コーナーのひとつ「説教するダイハード・ポストモダン」は山田准教授の担当だ。

なお、読売新聞全国版朝刊(1月29日)「ミース賞展」(ヨーロッパ建築賞展)の記事中で紹介された。

●これまでに配信された番組

<http://www.tatsumatsuda.com/>

第69回 MESH環境デザインセミナーで講演

2月27日(金)、愛知芸術文化センターで開かれた「MESH環境デザインセミナー」において、山田准教授が「ダイハード・ポストモダン-自作を語る-」と題して、講演(第1部)した。

第2部は「学生プレゼンテーション」。山田

研究室の3年生、中谷悠哉君、樋田暁君、福井陽裕君、伊藤啓太君が参加し、課題作品をプレゼン。コメンテーターとして、山田准教授も参加した。

山田准教授のブログ紹介

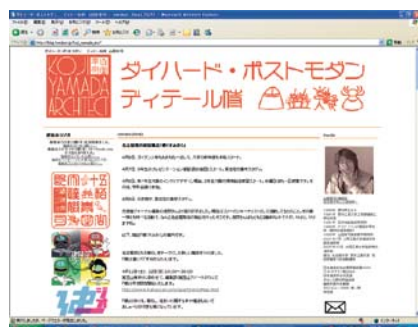
ライブドアの「有名人ブログ」の「プロ/作家/アーティスト」部門に山田准教授のブログ「ダイハード・ポストモダン ディテール侍」が紹介されています！

詳細はこちら→ *ライブドア「有名人ブログ」

<http://blog.livedoor.com/star/>

*ダイハード・ポストモダン ディテール侍

http://blog.livedoor.jp/koji_yamada_arc/

東北大学「五十嵐太郎研究室レクチャーシリーズ」で講演
建設通信新聞(2/26)で紹介

12月2日(火)、東北大学で開催された「五十嵐太郎研究室レクチャーシリーズ」のゲストに山田

准教授が招かれ、「ダイハード・ポストモダン」自作を語る」という2本のテーマで講演した。

また、東北大学五十嵐研究室とのコラボは、建設通信新聞(2/26)にも「窓の建具により進化した日本建築」として掲載された。



■ 大東憲二 教授 (都市環境デザイン学科)

土壌・地下水汚染 GETReC ネットワーク登録企業「事業・技術発表会」で講演

(協)地盤環境技術研究センター (GETReC) 主催の「土壌・地下水汚染GETReCネットワーク登録企業 事業・技術発表会名古屋大会」が11月28日(金)、メルパルク名古屋で開かれた。

100社を超える企業が登録している

「GETReCネットワーク」のメンバーが参加し、意見交換を行ったこの会で、大東教授は「土壌・地下水汚染のポテンシャルマップについて」と題し、講演した。



大東教授

「現場型環境教育プログラム研究会」で
本学の環境教育活動事例を報告

1月16日(金)、北九州市立大学で開催された「現場型環境教育プログラム研究会」に大東教授が参加し、本学で行っている環境教育活動の事例を報告した。

この研究会は、フィールドワークや現場型の環境教育プログラムを実践する大学等の教育関係者および北九州地域の環境活動の実践者が集まり、環境教育実践における効果や課題、

地域関係者との連携に関して活動事例を報告し、意見交換を行うもの。大東教授は、都市環境デザイン学科で実践している「都市環境プロジェクト実習」について事例を報告した。

研究会はおよそ3時間にわたり、事例に関する問題や今後の課題等、積極的な意見交換が行われた。



石原産業(株)「第6回環境専門委員会」開催

2月3日(火)、石原産業(株)四日市工場で「第6回環境専門委員会」が開かれ、全域調査の中間報告が行われた。

この委員会は、化学メーカー・石原産業(株)の四日市工場における土壌・地下水汚染について学識経験者の指導を得ながら調査・修復

に取り組むことを目的として7月に設置、大東教授が委員長を務めるもの。

今回の委員会では、地中や地下水の汚染状況、地質の状況や地下水の流動などが報告され、現在の汚染状況や今後の調査について意見が交わされた。現時点では「人に対するリス

クは低い」としたものの、多くの観測地点から高濃度のヒ素や鉛が検出されており、大東教授は「汚染原因を究明したうえで優先順位をつけて処理方法を考えていきたい」と話した。

この様子は、2月4日(水)の中日・朝日・読売・毎日新聞(地方版)で紹介された。

中部ミニフォーラムで特別講演

11月20日(木)、メルパルク名古屋で「技術の伝承」をメインテーマに「中部ミニフォーラム2008～若手技術者技術力・発表力向上を目

指して～」が開かれた。

このフォーラムは、若手技術者の発表技術力向上、地質調査業の社会的地位向上を目指

して開催されたもの。

大東教授は「最新名古屋地盤図改訂と地盤評価」と題して、講演した。



棚橋准教授

■ 大東憲二 教授 (都市環境デザイン学科)

棚橋秀行 准教授 (都市環境デザイン学科)

充填技術センター 第3回懇話会に参加

充填技術センターでは、会員の提案に基づいて、講演会・セミナーなどを開催し、技術の交流と普及を図っている。

12月5日(金)に開かれた今回は「土壌・地下水汚染問題に対する新たな取り組み」をテーマに、大東教授が司会を務めた。

講演は棚橋准教授が「油汚染地盤の浄化アイデアあれこれ」と題し、様々な非掘削での油汚染地盤のアイデアを発案し、2000年から2008年にかけて多くの室内実験を実施した結果の成功・失敗の原因、そしてそこから学んだ知見を報告した。

トコトン先生!
大活躍!

■ 鷺見哲也 准教授 (都市環境デザイン学科)

「愛知県不動産鑑定士協会 研修会」で講演



11月12日(木)、アイリス愛知で「愛知県不動産鑑定士協会 研修会」が開かれ、環境河川工学が専門で、岡崎豪雨の検証をマスコミ各社(『中日新聞(8/30, 9/25)』『毎日新聞(8/31)』『朝日新聞(9/20, 9/28)』『東海テレビ(9/29)』『中京テレビ(9/29)』『メーテレ(10/27)』)で発表した鷺見准教授が「まちづくりと水害リスク〜岡崎・豊田市と名古屋市を例として〜」と題し、講演した。その会は、協会会員のために開催

されたが、愛知県や岡崎市の職員の方も出席され、当初50人程度と予想していた出席者が80人以上となった。

これまで不動産鑑定評価に水害リスクが十分組み込まれていなかったことから、今後、水害リスクを含む自然災害リスクをどのように不動産鑑定評価に組み込むかについて、協会も勉強を始めたところ。

今後は、本学工学部都市環境デザイン学科不動産マネジメント専攻(2009年4月新設)と協会が共同研究を始める予定である。

朝日新聞「異見新言」でコラム掲載

12月13日(土)、朝日新聞朝刊のコラム「異見新言」に「中小河川に対応したハザードマップの作成を」が掲載された。

ゲリラ豪雨などで水害が相次ぐ中小河川。

あつという間にあふれ、避難勧告は間に合わない。鷺見准教授は、自治体による中小河川に対応した洪水ハザードマップの作製を唱えた。

■ 川戸和英 教授 (情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

「日本広報学会 中部部会 シンポジウム」を2年連続で実施

トヨタ自動車の張 富士夫会長が会長を務める日本広報学会。その理事で中部部会の事業担当の川戸教授が、3月10日(火)、中部部会シンポジウムを企画・構成し、当日は、総合司会とシンポジウムのモデレーターを務めた。

中部地区は昨年夏まで日本で一番元気だったが、世界同時不況に突入した途端、全国でも最も落ち込みの激しい地区となった。それを打破する意味でも、中部地域の企業の経営者と広報担当者へ新たな進化の方向性を探ろうという主旨で開催された。

当日は、まず第1部の基調講演で、NHKの大

島春行解説委員が「世界同時不況で何が変わるかを」講義した。

第2部のパネルディスカッションでは、ブラザー工業の広報担当執行役員 長谷川知之氏、(株)ミツカングループ本社の広報室長 石田憲司氏、NHK 大島春行氏、そして日本広報学会から前理事長の上野征洋・静岡芸術文化大学副学長の4氏がパネラーとして登壇。各企業の広報実態や新たな経済や企業経営の動きの報告を受け、川戸教授のコーディネートを通じて、製造業の新たな発展の可能性とネットを中心とした世界への広報活動の重要性が浮き彫りにされた。



川戸 教授(左)



■ 高山 努 准教授 (教養部 化学教室)

「国際化学オリンピック」日本代表選出に協力

高山准教授が、国際化学オリンピック第41回大会(およそ60ヶ国参加)の準備問題の翻訳に協力した。昨年の第40回大会に引き続き2度目。国際化学オリンピックは

各国の高校生の代表が一年に一度会し、「化学」の実力を競い合う大会だ。昨年は出場者4人全員が銅メダルを獲得した。これまで日本は4人が金メダルを獲得している。国際化学オリンピックの日本代表に選出されるには、全国から、およそ1500人が参加する「全国高校化学グランプリ」で、22人(代表候補)に残る。次に本大会本部が作成した準備問題で事前に学習して最終選抜合宿に参加。そこで最終的に4人の代表が決定される。高山准教授は、英語で作成されている準備問題を、高校生にもわかるように日本語に翻訳した(分析化学/ポリヨウ化物塩の合成と分析)。その準備問題で選出された日本代表4人は、本年7月にイギリス(ケンブリッジ)で開催される本大会に臨む。

なお、2010年の第42回大会は、日本で開催される予定。



トコトン先生
大活躍!

■ 井藤隆志 准教授 (情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

「岐阜提灯協同組合×お月見.jp プロジェクト」
パネリストを務める

11月13日(木)、岐阜メモリアルセンターふれ愛ドームで「岐阜提灯協同組合×お月見.jp プロジェクト」が開催され、井藤准教授がパネリストとしてパネルディスカッション「伝統工芸品の新たな取り組み～モノづくりからコトづくりへ～」に参加した。

250年以上の歴史の中、優美な工芸品として発展してきた「岐阜提灯」。このイベントは、そのような伝統的提灯の魅力を伝え、岐阜提灯のさらなる発展への願いを込めて企画された。

「お月見.jpプロジェクト」のプロデューサーである井藤准教授らは、提灯とは「人と人をつなぐ灯火」という仮説を立てた。提灯という灯りのもとに、人が集い楽しく時を過ごす。縁日の提灯、居酒屋の赤提灯もまた人を呼び、集うための灯りそのもの。一方、日本で夜の集いの場につきものの「月」。古くから、お月見、観月とよばれる行事を行い、月を愛で、季節と自然を感じ、皆での集いを何より楽しんだ。そ

れから、お月見こそが提灯を必要とするシーンであることを確信し、新しい「月見提灯」というかたちが生まれた。

今回のディスカッションでは、従来の「提灯」から新提案である「月見提灯」に至る経緯を説明。岐阜提灯協の事例を用いな



井藤 准教授 (中央)

がら、伝統工芸品のこれからのモノづくりはどうあるべきかを話し合った。

デザインブランドセミナー
「自社ブランド商品開発講座
～自社ブランド商品の立ち上げを目指す～」で講演

3月5日(木)、岐阜県民ふれあい会館で、中部知的財産戦略本部事業 デザインブランドセミナー「自社ブランド商品開発講座～自社ブランド商品の立ち上げを目指す～」が開催された。このセミナーの講師として井藤准教授が

招かれ、国内外の多くの企業と商品開発を実施した経験から、デザインや自社ブランド商品を開発する際の課題や戦略、および意匠権の取扱いなどについて講演した。

■ 光田 恵 准教授 (建築学科)

クリスマスイベント
「手作りアロマオイル講座」を開催

12月16日(火)、19日(金)の2日間、本学でクリスマスイベント「手作りアロマオイル講座」を開催した。この講座は、2010年4月新設予定「かおりデザイン専攻」の光田准教授が講師を担当した。

講座では、「かおり?におい?」

の使い分け方から、エッセンシャルオイルの歴史、アロマセラピーや香水分類などを紹介。マリリンモンローで有名な香水「シャネルの5番」のかおりと、その中に含まれる成分のひとつ「スカトール」のにおいをかいでみると、全く違うことに驚き、普段「くさい」と感じるにおいでも、様々な割合で「いいかおり」になってしまうことを体験した。



その後、それぞれがエッセンシャルオイルを調合し、オリジナルアロマオイルを制作。クリスマスプレゼント用にきれいなラッピングも施した。「何かちがう～!」「これすごいいかおり☆」など、自分の好きなかおりを作り出すことにみんな苦労しつつも、最後には満足できる「かおり」のプレゼントを持ち帰ることができた。



佐藤 准教授 (中央)

■ 佐藤壮一郎 准教授
(教養部 保健体育教室)

楽しくハンドボール

3月1日(日)、三重県熊野市「くまの健康スポーツクラブ」主催のイベント「スポーツ体験屋台村」に招かれた、ハンドボール日本代表コーチの佐藤准教授。参加した64人の小学生にハンドボールを指導。ウォーミングアップ後、ボールを高く投げ背面キャッチする練習で運動神経を養った。

2対1によるパスなどをした後、ゲーム形式でハンドボールを行い、ゴールが決まると大はしゃぎ。参加した小学生たちは「投げる」「走る」「飛ぶ」といったスポーツの基礎をハンドボールから体験でき、爽やかな笑顔を見せていた。



授業開発センター

最近のニュース、2件紹介。

研究授業や授業評価アンケートなどをとおして学生のみなさんに係わりがあります授業開発センターから、最近のニュースを2つ紹介します。

* * *

第144回研究授業・授業研究会(2008年12月12日(金)、電気電子工学科・稲熊幸雄教授「電気磁気学Ⅲ」)に、四国地区大学教職員能力開発ネットワークの7名の先生方が参加しました。本学の授業公開(授業参観)の取り組みを参考にしたい、という目的からでした。研究授業・授業研究会の全部に出席していただき、貴重なご意見・感想を伺うことができました。ご来訪された7名の先生方のご氏名と所属は

以下のとおりです。佐藤浩章先生(愛媛大学)、坂本明雄先生(高知工科大学)、宮田政徳先生(徳島大学)、香川順子先生(徳島大学)、市川正彦先生(松山大学)、盛重文太郎先生(松山短期大学)、勇秀憲先生(高知工業高等専門学校)。このような学外の先生方との交流・意見交換は、とっても有益なものでした。四国の7名の先生方と、すばらしい研究授業を提供してくださいました稲熊先生に、この場を借りて感謝いたします。

* * *

授業開発センターは、研究授業/授業研究会、授業アンケートに加えて、授業改善をより促進する取り組みとしてシンポジウムなどを開

催していきます。これまでの授業研究会で繰り返し話題になった授業方針・方法に関する重要なテーマを取り上げます。本学の授業改善の現状を把握し、未来への発展に繋がる議論の場となればと思います。第1回授業開発センター・シンポジウムのテーマは、「学生に考えさせるか、覚えさせるか」で、下記のプログラムの通り、2009年3月2日に実施されました。36名の出席者(うち非常勤講師の先生方、5名)があり、活発な討論が行われました。シンポジウム終了後、参加者のみなさんに、アンケートという形でシンポジウムの内容・運営についてご意見をいただきました。今後これを参考に、さらに良いものにして続けていきたいと思っています。



シンポジウムの様子

第1回 授業開発センター・シンポジウム

- 15:00 ~ 15:10 司会挨拶/趣旨説明
- 15:10 ~ 15:25 プレゼンテーション1:
鳥野壽章 准教授(情報システム学科)
—「考えさせる」が重要という立場から—
- 15:25 ~ 15:40 プレゼンテーション2:
尾形和哉 准教授(ロボティクス学科)
—「覚えさせる」も重要という立場から—
- 15:40 ~ 16:20 総合討論
- 16:20 ~ 16:30 まとめ

キャリアセンター

「change」を心がけ、不況を「chance」に変える、シューカツを。

平成21年度就職活動のスタートを切る「学内企業説明会」が、本年も2月3日から6日までの4日間、本学石井記念体育館で開催されました。平成20年の夏を境に「不況ニュース」が出ている中で、来春(平成22年3月)に卒業を迎える学生達は、不安と希望を抱きながらも積極的に就職活動に取り組んでおり、各企業の採用担当者の説明を聞く姿からはこの「景気悪化環境」を乗り越えていく熱意と逞しさが感じられました。

本年実績：企業数(351社)

学生延べ参加者数(1,635名)

昨年実績：企業数(388社)

学生延べ参加者数(1,555名)

今回の説明会における学生動向は、建設系では例年殺到するハウスメーカー系を避け大手建設会社及び内装を中心としたインテリア

系企業への希望が多くなりました。また機電系では、東海地区を中心にした電設関係企業への興味が高く、情報系ではソフト開発企業への希望が例年に比較し減少気味でした。全体としては、学科を問わず「鉄道」関係への希望が殺到したのが印象的でした。

来春卒業予定の学生達は本学において、これまで以上に充実したキャリア教育を受けてきました。すなわち、1年次で「就職観の涵養等」を始めとする「自己発見セミナー」を、2年次で「自己分析と自己啓発」意識の高揚を目的としたセミナーを、さらに3年次で、きめ細かい「就職ガイダンス」を受講しています。それにより昨年に比較して「真剣な取組と自己主張

が出来る」学生が増加したと感じています。

学生の皆さんには、就職状況の厳しい現実を素直に捉え、早期に就職活動意識への「change」を心がけ、この不況を「chance」に変える逞しさを期待しています。



学内企業説明会の様子



産学連携共同研究センター 「産学官連携交流会」 に参加

12月17日(水)、大府市役所において「第2回産学官連携交流会」が開催された。

本交流会は、大府市と大府商工会議所が、市内事業所の新たな事業展開のきっかけづくりを目指して、近隣の大学や公設研究機関の方々と気軽に情報交換や技術相談ができる人脈づくりの機会として開催しており、今年で2回目となる。

本学は、地域貢献・産学官連携の促進のため、本学の交流実績及び産学官連携体制の紹介をした。

におい・かおり研究センター 誕生記念講演会

2月19日(水)、本学講義棟で、「におい・かおり研究センター 誕生記念講演会」を開催し、109人の参加者を集めた。

始めに澤岡昭学長が、2010年4月新設予定「かおりデザイン専攻」についての紹介を交えながら、高齢化社会によりこの分野の社会ニーズは大きいと本センターの役割を話した。

次に、におい・かおり研究センター長 光田恵准教授(工学部 建築学科)が「ラボラトリーにおけるこれまでの研究とセンターにおける今後の課題」と題して、講演。2001年より本学産学連携共同研究センター内に臭気評価・制御研究ラボラトリーを開設し、生活環境における臭気の評価および制御に取り組んできたが、2008年、におい・かおり研究センターを開設した今、「臭気」というにおいの限られた範囲を取り扱うのではなく、生活環境におけるあらゆるにおい、特に負のイメージだけでなく心地よいにおいをも取り扱うなど、人々の生活の身近



愛知県の工業高校20校、教員120名、高校生1600名を対象に 燃料電池製作実習を実施

県立の工業高校生および、教員等に向けた燃料電池製作実習について、今年度も引き続き、機械工学科 先端機械工学専攻 堀 美知郎教授が担当し、各高校へ出向き授業を行う「出前授業」を実施した。

幅広い産業分野で新産業・雇用の創出の可能性を秘めた燃料電池の普及促進に向けた人材育成を目指す愛知県の方針のもと、3ヵ年計画にて行われており、大同工大が2007年から受託している。

2年目にあたる今年度は、工業高校以外の高校も対象にしており、新たに瀬戸窯業高校、三谷水産高校、鶴城丘高校、岩倉総合高校、渥美農業への出前授業も展開された。

今年度は高校20校・約1,600名の高校生に講義を行い、その後、燃料電池研究センター所



堀 教授(左)

属の研究員や堀研究室の学生の指導のもと、実際に燃料電池キットを作成し、小型モーターを起動させる実験を行った。

完成した燃料電池セルへ水素を流し込み、モーターに取り付けられたプロペラが勢い良く回った瞬間、どの高校からも歓喜の声と拍手が起こった。

平行して、高校教員約120名を対象にした燃料電池製作研修も、弊学で3度行われ、興味深そうに燃料電池キットを組み立てる姿の教員が印象的であった。

また、愛知県庁から実際にTOYOTA製燃料電池車が各高校へ持ち込まれた。

エンジン車とはあまりに違う走行時の静かさや、加速性能に驚く高校生や教員が多数見受けられ、その後の展示会では愛知県庁職員の説明を熱心に聞いていた。



なにおいにあらゆる角度から取り組んでいきたいと話した。

そして最後に、基調講演。社団法人におい・かおり環境協会会長 岩崎好陽氏が「三点比較式臭袋法の開発と嗅覚測定法の課題」と題して、講演された。

講演会終了後は、高層棟14階ラウンジで祝

賀会を開催。70人が参加し、会は大盛況のうちに幕を閉じた。

なお、この会の開催は、2月18日(水)の中日新聞朝刊で紹介された。

第8回 におい研究交流会を開催

2月19日(水)、におい・かおり研究センター主催(代表 光田恵 建築学科 准教授)の「におい研究交流会 -産学連携共同研究センター研究会-」を本学講義棟で開催した。

「におい・かおり研究センター」発足元年の今回は、業界関係者や前日の中日新聞記事をみて飛び入りでみえた方等、85人の参加があった。

会は、始めに光田准教授の挨拶があり、「におい・かおり研究センターの研究紹介」へ。光田研究室の学生が、東京電力(株)・八千代病院・中部電力(株)・パナソニック電工(株)との共同研究で得た成果をプレゼンテーションした。

次に「企画セッション〜かおり研究の関連学会から〜」。「生活環境におけるにおい・かおりの意識調査に関して」と題して、におい・かおり環境学会 学会誌編集委員長 (2010年4月

新設予定 本学かおりデザイン専攻客員教授) 岩橋尊嗣氏が、また「室内のにおい評価・制御委員会〜平成20年度活動報告〜」と題して、人間-生活環境系学会 室内のにおい評価・制御委員会幹事 村上栄造氏が講演された。

そして最後に場所をかえ、それぞれの研究をまとめたポスターを前にディスカッション。学生たちは、参加した業界関係者と活発に意見交換し、交流。主催者側も参加者も互いに有意義な会となった。





「DIT 成人式」晴れやかに、開催。

1月15日(休)、本学B棟1階で開催した、澤岡昭学長主催、同窓会・後援会協賛「DIT成人式」に、新成人およそ100人、同窓会・後援会、教職員等関係者およそ50人が集まった。

始めに、澤岡学長が「二十歳、おめでとう！学生生活をおもいきり楽しんでください！」と祝辞を述べられ、ソフトドリンクで乾杯！あたたかくておいしい料理を囲んでの立食パーティがスタートした。

元応援団団長 奥村博司理事長の熱いエールと、DIT吹奏楽団の華やかな演奏によって式は一層盛り上がり、いよいよクライマックス、ビンゴ大会へ。Wii・Wii Fitのセットやipod Shuffle、デジカメ等、豪華賞品16点争奪のビンゴ大会を見事制した学生は、なんとこの日が誕

生日。成人祝いとともに、誕生日プレゼントも自分の力でGETした。

こうして第2回となった「DIT成人式」は大盛況のうちに終了した。

宮本一男 同窓会長(右)



澤岡学長と新成人の学生たち

学生の居場所、充実。

2009年4月、大同大学に変わると共に、学生の居場所スペースもリニューアル、始動。



B棟1F 学生ホール



B棟1F 学生食堂



B棟2F 女性専用ルーム



A棟2F 学生ホール



A棟1F 学生ホール



南区魅力発見 フェスティバルに出展

3月14日(土)、南区役所講堂で開催された「南区魅力発見フェスティバル」に本学は、「オリジナル写真入りキーホルダーをつくろう!」(情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 横山弥生研究室)と「オリジナルアロマオイルをつくろう!」(情報デザイン学科 かおりデザイン専攻(2010年4月新設予定))の2ブースを出展した。

イベント開始前から他ブースのスタッフが制作に来るほどの人気ぶり。およそ200人が本学ブースで制作を楽しんだ。

特に印象に残っているのは、本学学生と南区の昔話で盛り上がっている、お年寄りの方のたくさんの笑顔です。

DIT 見学会

DITを見学したいという、小・中学・高校が増えています。



横山教授

10月23日(木)	扶桑北中学校	・施設見学(ロボット工房/A棟14階/情報教育センター/図書館)
	扶桑中学校	・体験授業(電気電子工学科 佐藤義久教授)
10月24日(金)	柴田小学校	・施設見学(ロボット工房/講義室/食堂/売店/ATM)
10月29日(水)	安城南高等学校	・施設見学(学習支援センター/情報教育センター/電気工房/図書館/燃料電池研究センター/におい研究ラボ)
		・学食体験
11月26日(水)	豊川高等学校	・体験授業(情報システム学科 国立 勉教授)
11月28日(金)	田川高等学校	・施設見学
		・体験授業(プロダクトデザイン専攻 横山弥生教授) (メディアデザイン専攻 小高直樹准教授)
		・研究室紹介(かおりデザイン専攻 光田 恵准教授)
		・学食体験
12月5日(金)	桜山中学校	・体験授業(プロダクトデザイン専攻 横山弥生教授)
1月23日(金)	当知中学校	・体験授業(都市環境デザイン学科 堀内将人教授)
2月3日(火)	安城南高等学校	・体験授業(プロダクトデザイン専攻 横山弥生教授) (メディアデザイン専攻 小高直樹准教授)
		・施設見学(燃料電池研究センター/ロボット工房/電気工房/CAD造形室)
		・学食体験
3月13日(金)	八幡中学校	・体験授業(機械工学科 平 博仁教授)
		・ロボット工房、産業用ロボット見学 (ロボティクス学科 西堀賢司教授、橋口宏衛講師)

学術提携協定校 泰日工業大学との交流

副学長 井上 茂 樹



クリサダ学長からプミボン国王について記した書籍「大地の力」の贈呈を受けた。TNIポーンアノン副学長、鈴木准教授と

名工大・愛工大・本学・豊田高専の平成20年度戦略的大学連携支援事業「工科系コンソーシアムによるものづくり教育の拠点形成」の「留学生教育・ケア体制の組織化・体系化による中部圏の国際交流拠点形成」に向けた事前調査のために、2月15日(日)～18日(水)に本学と学術交流協定を締結している泰日工業大学(Thai-Nichi Institute of Technology: TNI)、および盤谷(バンコク)日本商工会議所を訪問した。

TNIではクリサダ学長、ポーンアノン副学長

と意見交換し、TNIから要請のあった本学への短期留学生派遣について4月から2ヶ月間2名の学生を受け入れることで合意した(その後、TNIの選考でITコース2年次女子学生ナヴァポーンさん、カンカモンさんの2名が決定した)。TNIは設立して2年と歴史が浅く、実験設備が整うにはまだ時間が必要であり、より実りある交流を期待し、本学の創造製作センターで実施している機械系学科の実験実習を短期留学による集中講座で実施することを提案したところ、①短期留学なので費用面でのバリアが低い、②実習科目なのでTNI学生の日本語能力(TNIでは日本語が必修)の心配も軽減できる、③TNIで単位付与の可能性もあり学生にメリットがある等々で提案が歓迎され、今後具体化に向け検討することで合意した。

盤谷(バンコク)日本商工会議所では井上事務局長と面談し、「戦略的大学連携プロジェクト」事業について説明して理解と協力をお願いしたが、経済環境が激変していることやタイ国内の雇用慣習が日本と異なることから直接的

な協力は非常に難しいとの回答で、盤谷(バンコク)日本商工会議所に「TNI支援委員会」があるのでTNIを通じてこの委員会に提案するのが近道であるとのアドバイスをもらった。

翌17日にはTNIの希望で、日本への短期留学に興味を持っている1,2年の学生20人ほどを対象に本学の学部・学科紹介と機械工学科および情報システム学科について少し詳しいプレゼンを行った。来年はもっと多くのTNI学生を迎えることができるのではと期待している。



TNI学生に本学の紹介をしている様子

新刊書出版

■著者：船橋仁奈 非常勤講師（建築学科）
監修：山田幸司 准教授（建築学科）

『Google SketchUp スタンドガイド』



Google SketchUpのやさしい解説書。インストールの方法から、線や面の作成といった基本操作までをわかりやすく解説しています。家や家具を作成してみることで機能を使いこなし、モデリングしてテクニックも身につけることができる1冊となっています。



発行所：(株)秀和システム
発行日：2008年12月1日
定価：3,360円（税込）

■大石弥幸 教授（情報デザイン学科 メディアデザイン専攻）

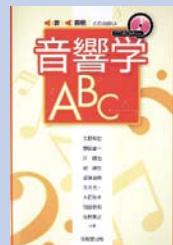
『音・振動との出会い 音響学ABC』



「音」と「振動」と人間とのかわりを主題とする「音響学」。本書は、音響学に関する基礎の部分と応用部分から成り立ち、初心者が音響学の基本的な事柄を楽しく修得できるよう工夫してあります。その他、音響学の歴史や最新のトピックスなどに気楽に接することができるように、随所にコラムを設け、章末には、より関心を深めるための課題や演習問題も用意。

大石教授は、本書の「第9章 楽しむ音」を執筆。楽器や音楽の歴史、いろいろな音階の話、最近の音作りの技術など音を楽しむための知識を紹介しています。

出版社：技報堂出版
発行日：2009年2月20日
定価：2,940円（税込）CD-ROM付き



CAFE.



人 事

●小野先生最後の講義

小野研究室最後の指導学生一同

私たち小野研究室の7名は、2009年3月7日(土)、大学構内にて【小野宗憲先生 ご退職記念講義と祝賀会】を開催しました。当日は、小野先生の奥様と多くの小野研究室OBの方々にご参加いただき盛況に行うことができました。

記念講義では在学生と卒業生と一緒に聴講できたことは有意義であり、祝賀会では『我が子に接するが如く穏やか』に小野研究室門下生とご歓談される先生のご様子に私たちは大変温かい気持ちに包まれました。また、卒業間近の私たちにに対し、先生だけではなく多くの先輩方より『社会人としての心構え』についてアドバイスをいただき、厳しい社会に出るための『勇気』が湧きました！

小野先生にご指導を受けたことに感謝し、必ずや再度、小野研究室OB会を開催したいと思います。



●退職【法人本部・大学】

〈教育職員〉(H21.3.31)

市川武久(工学部 機械工学科 教授)・近藤 巖(工学部 機械工学科 教授)・杉浦正勝(工学部 機械工学科 教授)・小野宗憲(工学部 ロボティクス学科 教授)・岩間三郎(工学部 電気電子工学科 教授)・藤本 博(情報学部 情報システム学科 教授)・井上茂樹(情報学部 情報デザイン学科 教授)・鳥野壽章(情報学部 情報システム学科 准教授)・清水郁郎(工学部 建築学科 准教授)・伊藤昇一(工学部 機械工学科 特任教員)

〈事務職員〉(H21.3.31)

磯川憲二(大学事務部 研究・産学連携支援室長)・児玉和雄(総務部 総務室 主任部員 兼 大学事務部 教務室 主任部員)

〈嘱託職員〉(H21.3.31)

西川初三(総務部 総務室)・長谷川みや子(大学事務部 図書館室)

〈特別嘱託職員〉(H21.3.31)

太田幸一(キャリアセンターキャリアアドバイザー)

●採用【法人本部・大学】

〈教育職員〉(H21.4.1)

野田 卓(工学部 機械工学科 教授)・加藤光廣(工学部 機械工学科 准教授)・上田浩次(情報学部 情報システム学科 教授)・杉浦正勝(工学部 機械工学科 特任教員(任期：H21.4.1～H22.3.31))・小野宗憲(工学部 ロボティクス学科 特任教員(任期：H21.4.1～H22.3.31))・岩間三郎(工学部 電気電子工学科 特任教員(任期：H21.4.1～H22.3.31))・太田福男(工学部 建築学科 特任教員(任期：H21.4.1～H22.3.31))・鳥野壽章(情報学部 情報システム学科 特任教員(任期：H21.4.1～H22.3.31))・田中裕巳(教養部 教職教室 特任教員(任期：H21.4.1～H22.3.31))

〈事務職員〉(H21.4.1)

川角匡史(大学事務部 教務室)・清水孝純(大学事務部 研究・産学連携支援室長 特任教員(任期：H21.4.1～H22.3.31))

〈嘱託職員〉(任期：H21.4.1～H22.3.31)

毛利志保(工学部 建築学科)・勝島貞悟(情報学部 情報デザイン学科 兼 情報学部 情報学科)・中村智史(情報学部 情報デザイン学科)〈特別嘱託職員〉(任期：H21.4.1～H22.3.31)

中井靖男(学習支援センターシニアアドバイザー)・鰐部吉基(学習支援センター)・堀口通安(高大連携推進アドバイザー)・近藤邦治(戦略的大学連携推進プロジェクト連携コーディネーター)

●異動【大学】

〈事務職員〉(H21.4.1)

相原美輝(大学事務部 図書館室長 兼 大学事務部 教務室 主任部員)・木村雅美(大学事務部 教務室)・若林貴昭(大学事務部 学生室)

●昇任【法人本部・大学】

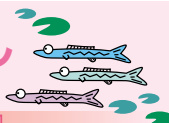
〈教育職員〉(H21.4.1)

矢野治久(工学部 機械工学科 教授)・宇野 享(工学部 建築学科 教授)・小高直樹(情報学部 情報デザイン学科 教授 併任 情報学部 情報学科 教授)・大澤文明(工学部 電気電子工学科 准教授)・松岡陽子(教養部 教職教室 准教授)

〈事務職員〉(H21.4.1)

鹿島孝之(大学事務部 キャリア支援室長(部長待遇))・上田賢幸(大学事務部 教務室(課長待遇))・大脇崇浩(法人本部 経理室(課長待遇))

スケジュール



4月

25(土) 新入生歓迎会

27(月) 第2回就職ガイダンス：3年生
(～4/30)

29(水) 授業日 昭和の日

5月

3(日) 憲法記念日

4(月) みどりの日

5(火) 子供の日

6(水) 「憲法記念日」の振替

7(木) 「昭和の日」の振替休業日

8(金) 「海の日」の振替休業日

9(土) 一斉休講日

10(日) 開学記念日

12(火) 学内企業説明会(～5/15)

18(月) 第3回就職ガイダンス：3年生(～5/21)

24(日) 大学祭(仮装行列)

30(土) 大学祭(本祭)

春のオープンキャンパス

31(日) 大学祭(本祭)

春のオープンキャンパス

6月

1(月) 第4回就職ガイダンス：3年生(～6/5)

10(水) 前期学生代表者会議

13(土) クラブ対抗ボーリング大会

18(木) 第1回女子学生就職ガイダンス：3年生

22(月) 第5回就職ガイダンス：3年生(～6/25)

7月

1(水) 学内企業説明会(～7/3)

6(月) 第6回就職ガイダンス：3年生(～7/9)

8(水) 第1回就職ガイダンス：2年生(～7/10)

20(月) 期末試験(～7/24)

編集後記

学位授与式終了後、600人を越える卒業生・教職員は一齐に名鉄電車に乗り込み、名古屋観光ホテルの卒業パーティー会場へ。久々に参加した私は、そこで本学のあたたかさを再確認した。それは、研究室(ゼミ)の指導教員と指導学生の関係だ。先生は私に学生の自慢話をして、微笑む。学生はその話にはニカミ笑い、私に先生との思い出話を始める。私はお酒とこの雰囲気から酔っていた。